



1986・2

第 21 号

しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



ユリカモメ（カモメ科）毎朝東京湾から川をさかのぼり、埼玉県内奥深くまで出勤して来て、夕方には帰って行く。声は決して良いとは言えないし、きたない所でも平気でエサをあさっている。あんまりたくさん群れていると、ついうんざりして、その中に他の種がまじっていないかとさがしてしまう。しかし、ある時、新幹線の中から見えた水面上の一群れは、車窓に純白の花たばのイメージを残したし、何よりも、軽々と高いその飛び方は、一種独特の気品さえある。やはり、私はこの鳥も好きだ。

（写真と文・影野 仁）

マイ フィールド

どこにでもありそうで、それでいてあなたにとって心ひかれる「何か」がある。そんな「マイフィールド」を持っている方も多いでしょう。今月は、3人の会員に、それぞれのフィールドを語ってもらいました。

ノスリの里

松井 昭吾 (大宮市)

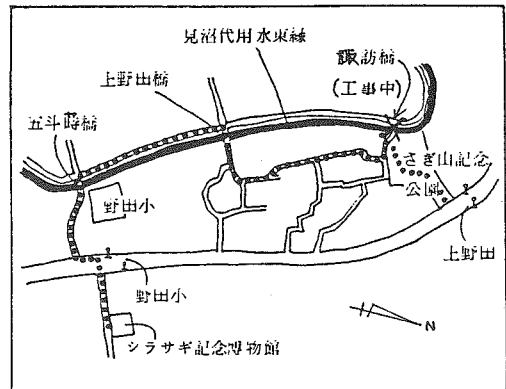
もう何年になるだろう。何回通ったことか。こゝで出逢ったあのトリ、このトリ、一つ一つの感激が鮮やかに私の胸の中に生きている。私のフィールドは野田のサギ山跡だが、むしろ私は「ノスリの里」と呼びたい。

大宮または浦和駅からバスで約30分、「上野田」または「さぎ山記念公園」で下車、真新しい公園をぬけて見沼用水東縁の土堤に上って目の前に開ける見沼田んぼを見渡す。私の眼は早くもいつもの鉄塔に悠々ととまっている、旧知のノスリくんを求める。「いた」例によってあの鉄塔のあの場所にいた。冬の訪れとともにどこからともなくやってきて、冬中私たちにあの悠揚迫らざる姿を見せてくれる吾がノスリくん、今年も来たか、と言いたくなる。

このあたりではキジバト、ヒヨドリ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ムクドリなどは常連だ。アンの中にはカンラダカが大群をなしている。また冬の女王ともいうべきタゲリがこの田んぼに数多く来ていて、あの優美な姿を心ゆくまで観察できる。かつて私はこの場所でオオワシの幼鳥も見た。あれは2月のある夕方のことだった。

コースとしては、目下工事中の諏訪橋を避

けて、森の中を通り、農家や畑の間を抜けて、下流の上野田橋を渡ってから、土堤の上を南下しながら、田んぼ側と川の対岸の林の中を観察するとよい。野田小を左に見て五斗時橋を左に渡りかえして大通りに出る。こゝで、せっかくのシラサギの地を訪れたからには是非とも、大通りを渡ってシラサギ記念博物館を訪ねることをおすすめしたい。シラサギで有名な田中徳太郎氏の作品をはじめ、充実したコレクションが見られる。全行程、約1Km強の軽いコースながら、吾が「ノスリの里」は訪れる人の心をなごませてくれること請合いである。



秘境・白幡沼

海老原美夫 (浦和市)

浦和市内の住宅地の中に、貴重な自然が残されている。白幡沼だ。私が時々この野鳥情報を報告するのを聞いたFさんは、どんな所かとバイクをとばした。ところが、案に相

違して、学校とマンションにかこまれた小さな沼にがっかりして、それ以来「秘境・白幡沼」と、冗談の種になっている。しかし、彼らが何と言おうと、子供のころから親しんで

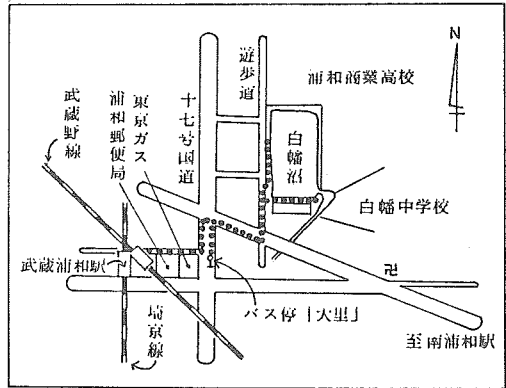
来た私たちにとって、そこは、身近かで、貴重な自然なのだ。

春・カイツブリの元気な声がひびく。激しいなわばり争いを続けながら、例年2～3ペアが子育てをする。遊歩道では、シジュウカラやヒヨドリなどが巢作りにいそがしい。

夏・カイツブリを初めとして、パン、カルガモなどの親子連れが見られる。その姿としぐさに、通る人々はみな微笑を送る。町中で子育てを終ったツバメも数十羽、水面上を乱舞する。ギンヤンマがついと飛ぶ。

秋・その年生れのカイツブリも、もう一人前に潜水をくり返している。岸辺でコサギが餌をあさり、ヨシゴイがひょうきんな顔をのぞかせる。

冬・コガモ、オナガガモ、ハシビロガモなど、合計9種類くらい、約200羽のカモが飛来する。トモエガモがその美しい姿を見せた事もある。全面凍結した氷の上で、彼らは暖



い冬の日ざしをあびてくつろいでいる。

時には、ヤマシギやカワセミも記録された事もある。小さな自然でも、毎日注意深く観察を続ければ、大きな生命がはぐくまれている事がわかるのだ。

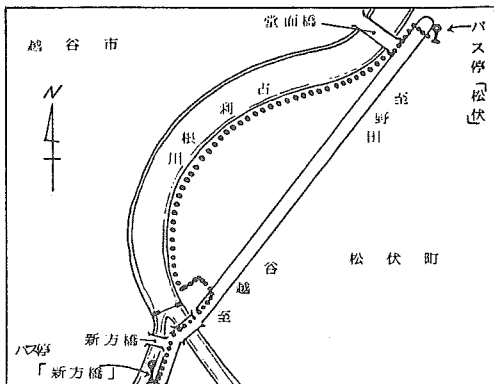
(武蔵浦和駅から徒歩7分、または浦和駅から藤駅西口や戸田公園駅行バスなどで「大里」下車徒歩3分)

古 利 根 川

山部 直喜 (越谷市)

東武伊勢崎線「北越谷」駅東口から、野田行きバスに乗り、9番目のバス停「新方橋」で下車。バスの進行方向へ約300mほど歩く。長紋商店を左折し、三本目の電柱をさらに左折すると古利根川に出る。ここから約1.5km上流の堂面橋までが、私の冬のフィールドだ。ここは、午前中に左岸を上流に歩いて行くのが、順光になって観察しやすい。

川に出たら、左手の水門・右岸・左岸をじっくり見て欲しい。カルガモ、コガモを中心



に、カワウや時にはトモエガモが観察できる。

川を遡って行くと、ユリカモメが随所で見られ、なかにセグロカモメが混じっている。ダイサギ、コサギ、アオサギは、水面をじっとにらんでいる。所々で、ハマシギ、イカルチドリ、タシギがせわしげに採食している。

さらに上流に進むと、右岸が広がっている所がある。ここには、たくさんのオナガガモ、カルガモ、ヒドリガモが昼寝をしたり、採食したりしている。この群の中に、必ず10羽前後のヨシガモが混じっている。時には、ハシビロガモ、オカヨシガモも見られる。マガモが一番だけいるのも愛敬だ(アヒルもいるので注意)。

やがて、フェンスと児童公園の間の道を歩くが、シジュウカラ、ジョウビタキ、モズ、オナガを見るのはこのあたりだ。ハクセキレイ、セグロセキレイ、シラコバトも兩岸をよく行き来している。

帰りは、堂面橋近くのバス停「松伏」から越谷・北越谷行きのバスに乗るのが便利だ。

伊豆沼ツアーに参加して

萩原正二(上里町)

11月22日から24日にかけて、支部主催の宮城県伊豆沼・内沼探鳥ツアーが行われました。群馬県の方も含めて総勢22名が11月22日の夜10時に熊谷を出発しました。途中、東北自動車道のSAで仮眠の後、伊豆沼に向かいました。器用にどこでも眠れる人とそうでない人がいて、車の中では一睡もできなかった人がいたようです。

暗いうちに内沼に着き、ガンの早朝の飛び立ちや雁行を待ちました。空が次第に白んでくると、沼には沢山の水鳥がいるのが見え、賑やかに騒いでいます。何組かが飛び立ち始めました。そのうち数えきれないくらいのガンがいろいろな方向に飛び立ち、どこを見てよいかわからないほどでした。

旅館に荷物を置き、日本野鳥の会宮城県支部の佐藤さんの案内で、伊豆沼から探鳥が始まりました。案内・説明はポイントをついており、地元のことはやはり地元の人のほうが

詳しいはずで、今後もツアーではこの方式が良いと思いました。

その晩は、食事・歓談の後、佐藤さんの貴重なスライドを見せてもらいました。純朴な感じの佐藤さんには、好感がもてました。

24日は直接福島に向い、お昼頃福島小鳥の森、阿武隈川を探鳥し、帰路につきました。

鳥あわせの結果は、伊豆沼が56種、福島小鳥の森・阿武隈川が30種でした。

今回のツアーでは、案内をしてくださった佐藤さん、企画・調整で御苦労いただき、沼エビのお土産まで心配してくださった石井さんに、紙上をお借りしてお礼申しあげます。

おわりに、ツアーに参加されたメンバーの方の俳句を御紹介します。

飛び立つや 雁の羽音の 空に充つ
かわせみの 背の輝きて 飛びにけり

新潟紀行

— ハクチョウを訪ねて —

楠見邦博(浦和市)

関越自動車道が全線開通して、新潟は本当に近くなった。そんな話を聞いて、急に北の国の鳥達に会いたくなり、11月の23、24日の2日間、鳥仲間のN氏と息子さん、Kさんの4人で、予定も立てない自由な鳥見行となった。朝5時半に浦和を出て、関越トンネルに入ったのは8時ごろ、一路越後平野を走り、約4時間で新潟市に着いた。信濃川河口にある鳥屋野潟で、オオハクチョウが飛立つのを見た。

雨の日本海に沿って戻り、約1時間半で、緑の畑と林に囲まれた静かな佐潟に着いた。ガラス窓からハクチョウが見えるレストランで昼食。午後の光の中にヒシクイが3羽、オオハクチョウ7羽が見え、冬は湧水のため凍らず、ハクチョウ達が集まるという湖の風景を飽かず眺めていた。

4時過ぎ、弥彦神社、寺泊へと、日本海に

沿った道路を、押し寄せる波と、波間を飛ぶカモメ達を見て走った。海辺の民宿にとまり、海の音を聞きながら、ストーブの暖かさに、明日見る鳥のことを話しながら、ビールにのどをうるおし語りあかした。

翌朝は曇、宿の前の日本海にカモやウミウが飛び、浜ではイソヒヨドリが青色の背中を見せていた。日本海の波打ち際をジープで走った。高い空を佐渡ヶ島へ、30羽余りのハクチョウが飛んで行くのを双眼鏡で追っていると、すべての事を忘れてしまう様だ。新潟市を北上し、福島潟、瓢湖と多くの鳥を見たが、心に残るのは、日本海の高鳴りと、空行くハクチョウの群だ。

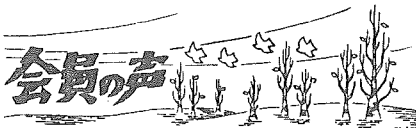
そして年が明けて1月、民宿の小母さんがくれた雪割草が、春を待つ心と、今も吹雪く新潟への旅と鳥達へと、私の心を誘ってくれる。



野鳥情報

クサシギ ◇11月26日、浦和市三室の芝川で約30羽の群れ(国益 勝)。
シラコバト ◇11月27日、幸手町の中川で1羽(秋間利夫)。
オジロトウネン ◇11月27日、幸手町の中川で6羽(秋間利夫)。
カワセミ ◇12月1日、浦和市の大崎公園で1羽(石川和義)。◇12月23日、浦和市大谷口の遊水池で♀1羽(近藤 崇)。
クロジ ◇12月2日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(石井生高)。◇12月22日、浦和市野田のサギ山跡地で♀1羽(探鳥会居残り組)。
ノスリ ◇12月2日、浦和市道祖士で2羽(国益 勝)。◇12月6日、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。◇12月25日、与野市の自宅上空で1羽(石井 智)。
スズガモ ◇12月6日、熊谷市河原松山で♀1羽(今井明巨)。
ミヤマホオジロ ◇12月6日、熊谷市の大麻生の森でも2羽(今井明巨)。◇12月15日、蓮田市の黒沼浜周辺の雑木林でも2羽(中島郁夫)。
コガラ ◇12月6日、熊谷市の大麻生の森で1羽(今井明巨)。
アカゲラ ◇12月6日、熊谷市の大麻生の森で2羽(今井明巨)。
ケアシノスリ ◇12月8日、渡良瀬遊水池で1羽(中島康夫)。◇12月9日、寄居町の

鐘撞堂山で1羽(石井生高)。
コミズク ◇12月22日、浦和市の秋ヶ瀬で1羽(福井 亘)。
キクイタダキ ◇12月15日、蓮田市の黒沼浜周辺の雑木林で3羽(中島郁夫)。◇12月22日、浦和市野田さぎ山記念公園で2羽(森本國夫)。◇1月3日、熊谷市の大麻生の森で2羽(今井明巨)。
オオタカ ◇12月15日、三芳町の高福寺で若鳥1羽(藤原寛治)。◇12月29日、大宮市の深作沼で1羽(中島康夫)。◇1月3日、熊谷市の河原松山で1羽(山口 博)。
タゲリ ◇12月20日、浦和市の国昌寺付近の田圃で3羽(大武昭雄)。
ヒガラ ◇12月21日、浦和市太田窪の氷川神社付近で1羽(近藤 崇)。
ホオジロガモ ◇12月23日、浦和市の荒川で♀1羽(福井 亘)。
ヨシガモ ◇12月25日、越谷市の古利根川で6羽(山部直喜)。
トモエガモ ◇12月25日、越谷市の古利根川でも1羽(山部直喜)。
コハクチョウ ◇12月30日、寄居町の荒川で若鳥1羽(吉野由紀夫、岡村克信)。◇12月31日、熊谷市の熊谷大橋下流で37羽(今井明巨)。
アオゲラ ◇12月31日、熊谷市の大麻生の森で1羽(今井明巨)。
ユリカモメ ◇1月3日、熊谷市の熊谷大橋下流で112羽(今井明巨)。
セグロカモメ ◇1月4日、白岡町の元荒川で2羽(浅田徳次)。



去年5月のパネル展にボランティアとして参加してとても楽しかったです。色々な人が来て、しかもその人々の役に立つことができ、大変良かったです。ボランティアをやっている日は、毎日がとっても明るく楽しかったです。学んだ事は、人に対する親切さややさしさ、そして鳥に対する深い愛情と情熱で

した。これからもこの様なボランティアをたくさんやれる事を楽しみにしています。

多田 孝(狭山市)

謹賀新年 役員の皆様、その他の皆様、旧年中はまことに御世話になりました。おかげさまで、わずかながら、野鳥の世界のすばらしさがわかって参りました。



鈴木高士(大宮市)



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以下=50円

2月2日(日) 三芳町 多福寺

午前8時45分東武東上線福岡駅西口集合（武蔵野線南浦和8:04発→北朝霞(乗換)東武東上線朝霞台→上福岡)または午前9時30分多福寺駐車場集合(大宮駅西口西武バス所沢行8:30発→地藏入口下車)。午後1時ごろ解散。冬枯れの雑木林の中、アオゲラやアカゲラのドラミングが響き、カラ類が忙しげに動きまわります。(担当=藤原寛治、長谷きみ子、増田 裕)

2月2日(日) 本庄市 阪東大橋北詰

午前9時高崎線本庄駅北口集合(高崎線大宮7:44発→本庄9:00着)。午後2時ごろ解散。カモの大群やコハクチョウを見ます。(担当=田村照治、石井生高、小淵健二)

2月9日(日) 熊谷市 大麻生(定例)

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(秩父鉄道熊谷9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。午後1時ごろ解散。冷たい川にカワセミがダイビング。林ではエナガやシメを見ます。(担当=鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

2月16日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館・共催 定例)参加費無料。

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。斜面林を歩くとカケスが飛びシメやジョウビタキも現れます。芝川ではコガモやオナガガモ、クサシギ、タンギが見られます。(担当=楠見邦博、森本國夫、福井恒人)

2月23日(日) 蓮田市 黒浜沼

午前9時東北本線蓮田駅東口バス停前集合。午後2時ごろ解散。湿地ではクイナやバンが見られ、雑木林ではカラ類やキクイタダキにも会えるでしょう。(担当=中島康夫、森本國夫、山部直喜)

2月23日(日) 所沢市 狭山湖

午前9時西武鉄道西武球場前駅広場集合。午後2時ごろ解散。(南浦和8:04→新秋津8:27着→徒歩7分→西武秋津駅8:39発→西所沢8:46着→狭山線乗換→西所沢8:52発→西武球場前8:58着)数千羽のカモとカンムリカイツブリ、上空をオオタカやノスリがソワリング。(担当=海老原美夫、福井恒人)

2月24日(月) 大井野鳥公園

午前9時品川駅南口改札前集合。バスで現地へ。午後2時ごろ解散。冬枯れのアソ原の上をチュウヒが飛びます。池にはオカヨシガモやハシビロガモが休んでいます。(担当=佐々木勉、草間和子)

3月2日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

午前9時寄居駅南口集合。アトリ、シメ。

3月2日(日) 軽井沢町 野鳥の森

午前6時20分大宮駅中央改札口前集合。普通電車利用の日帰り探鳥会です。アトリ、マヒワ、ウソ、ミヤマホオジロ、イカル、アオゲラなどを雪の林の中で楽しめます。費用は大宮=4,100円、熊谷=3,300円。

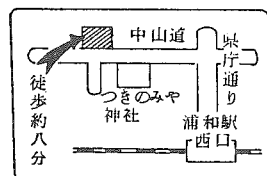
3月8日(土) 所沢市 狭山湖 午前9時西武球場前駅集合、カンムリカイツブリ。

2月8日(土) 野鳥写真教室

午後3~6時、浦和市コミュニティーセンターにて。前半は武蔵野野鳥生態写真研究会会長松田喬さんのお話し「入門編」。後半は各自が持寄った写真やスライドを見て、楽しく写真談議。ベテ

ランも初心者も、写真を持っている人も持っていない人もみんな集合。

(担当=海老原美夫)





12月1日(日) 寄居町 鐘撞堂山と玉淀湖

人 38人 天気 晴 鳥 コサギ オンドリ
 マガモ カルガモ オナガガモ トビ コジュケイ
 キジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ キセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ
 ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キ
 クイタダキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メ
 ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ カケス ハンボソガラス
 ハンブトガラス (35種) 鐘撞堂山では、元気者のミ
 ソサザイが、玉淀湖では、名物のオンドリやヤマセ
 ミが、それぞれの場所で役者がちゃんと出揃った。

12月8日(日) 熊谷市 大麻生

人 26人 天気 曇 鳥 コサギ カルガモ
 オナガガモ ノスリ イソシギ ユリカモメ キジ
 バト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジ
 ョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メ
 ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボ
 ソガラス ハンブトガラス (31種) 今にも泣き出し
 そうな空に、ノスリ1羽とカラス30羽の決戦。みんな
 がノスリ君頑張れ!河原では、コサギの乱舞にカ
 ワセミをたっぷり。カワセミ君、1年間皆勤どうも
 ありがとう。

12月15日(日) 浦和市 三室地区

人 62人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ
 オナガガモ ノスリ ハマシギ クサシギ タカブ
 シギ イソシギ タシギ ユリカモメ シラコバト
 キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキ
 レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジ
 ュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ
 カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハ
 ンボソガラス ハンブトガラス (36種) 開始早々ノ
 スリが風に乗ってゆうゆうと頭上を帆翔。みんな口
 をあんぐり開けてながめた。林では、コゲラがみん
 なを引き付けて独演会。

12月22日(日) 浦和市 野田

人 27人 天気 曇 鳥 コサギ ノスリ チ

ョウゲンボウ コジュケイ タゲリ シラコバト
 キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジ
 ュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ
 オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクド
 リ オナガ ハンボソガラス ハンブトガラス
 (28種) 寒い日だったが、お目当てのノスリはゆっ
 くり樹上に。タゲリは30羽位の群れ。昼食は、暖か
 いシラサギ記念博物館で。

12月23日(月) 大井野鳥公園

人 13人 天気 曇後晴 鳥 カイツブリ ゴ
 イサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カ
 ルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナ
 ガガモ ハンビロガモ ホシハジロ キンクロハジ
 ロ スズガモ トビ チョウゲンボウ バン オオ
 バン シロチドリ ハマシギ ユリカモメ セグロ
 カモメ オオセグロカモメ カモメ ウミネコ キ
 ジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ
 タキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ
 ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シ
 メ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス
 (44種) 昭和60年最後の探鳥会。冬鳥も出揃ってに
 ぎやか。カモメやカモ達に、元気に新しい年を迎え
 るようにと、ごあいさつ。

1月3日(金) 東京都北区 浮間公園と荒川

人 33人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ
 ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガ
 モ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ アカハ
 ジロ キンクロハジロ スズガモ ユリカモメ セ
 グロカモメ キジバト コミミズク ヒバリ ハク
 セキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ウ
 グイス シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ ス
 ズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハンブ
 トガラス (32種) 正月らしく、お年玉。浮間ヶ池で
 は、アカハジロ♂がゆっくり水面に浮び、河原では、
 コミミズクが舞っていた。探鳥会後のほろ酔いも良
 かったですよ。今年も、良い年でありますように!!



カット・白戸政枝

連絡帳

ご意見をお聞かせください

事務局や役員、各部担当者、探鳥会リーダーなど、すべてまったく無報酬どころか持ち出し覚悟のボランティアで活動しておりますが、それを支えているのは、社会的使命感です。その使命の実現の為に、皆様のご意見のつきかさなりが必要です。はば広いあなたのご意見をお聞かせください。

写真や原稿などをお待ちしています

『しらこぼと』は、会員の手で作られています。表紙用の写真やイラスト、会員の声などの原稿、カット、野鳥情報など、どんどんお送りください。お待ちしております。

岩本久則さんから著書が寄贈されました

昨年末の忘年会で楽しいお話を聞かせてくださった岩本久則さんから事務局へ、ポプラ社発行の『ボクの野鳥観察日記』14冊が送られて来ました。次代をになう子供たちにあげてくださいとの事です。ありがとうございました。ご趣旨の通りに活用させていただきます。

狭山市中央児童館野鳥観察会開催

12月8日、狭山市内、昭代橋下流の入間川で、たくさんのカモたち、サギ類、ユリカモメなどを観察。県支部からは4名のリーダーが指導に当たりました。一緒に参加したある母親は、初めて望遠鏡で鳥を見て、「わあ、やだ、動いてる」とさげんでいました。カワセミが魚をとらえてのみこむまでをじっくり観察できたのに、ある子供に一番良かった鳥は

と聞くと「コガモ」と答えていました。彼が最初に見えた鳥なのです。

会員数は

1月20日現在で650人です。

事務局日誌

- 11月26日 読売新聞浦和支局より、探鳥会について問合せ。(12月6日にも)
- 27日 狭山市中央児童館野鳥観察会について打合せ。
- 30日 『しらこぼと』12月号袋詰め作業(ボランティア7名)12月2日発送。
- 12月1日 シラサギ記念博物館と共催行事について打合せ。
- 6日 オオホシハジロ?の記事用メモと写真を各新聞社へ持参。4社から取材の電話。
- 13日 NHK紅白歌合戦出場希望者につき本部より連絡。16日、時間がたりなくて見つけれないと回答。
- 21日 『しらこぼと』1月号袋詰め作業(ボランティア11名)23日発送。
- 27日 日刊スポーツ新聞文化部杉山記者が、1月3日探鳥会の取材に来局。

編集後記

編集部では、あなたのマイフィールド・ガイドもお待ちしています。形式は、今月号を参考にして下さい。『しらこぼと』の連載にしたり、将来の夢としては本にまとめたりといろいろ考えられます。支部全体の大きな財産になることは確実です。どうぞ、ふるって投稿して下さい。(山部直喜)

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこぼと』

1986年2月号(第21号)
発行人 今井昌彦

頒価 100円(会費に含まれます)
発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
電話 0488(32)4062
郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990
印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)